

「京都市内小中学校における多様な児童・生徒に対する学習支援と学生によるフィリピン政府に対する事業結果
のフィードバック参加報告書」

京都大学文学部3年 中元友加里

フィリピンに到着した翌日、JFCへの学習支援に関するフィードバック、また日本へ移住するつもり
のフィリピン人の人々へ日本紹介のプレゼンテーションをするためにCFO(Commission on Filipinos
overseas)へ行った。私は「日本人特有のジェスチャー」を紹介するプレゼンテーションをした。日本
人特有のジェスチャーを知らなければ、コミュニケーションをとる際に誤解を生み出してしまうおそ
れがあると考えたからだ。一週間で計7回を行ったが、プレゼンの後いつも、日本へ行くフィリピン
人の人達と少し話す機会があった。日本での生活にどのようなビジョンを持っているのか知りたか
ったため、移住した後日本で子供を産みたいかという質問をした。しかし「わからない」と答える女性
が多くかった。ビジョンがあまり明確でないという印象をうけた。また、CFOには毎日たくさんの人が
海外長期滞在の手続きに来ていた。カナダやアメリカ、日本、韓国など各国に長期移住するフィリ
ピン人の多さと移住する人々を手助けする政府機関の多さに驚いた。CFO職員に聞くところによると、韓
国は日本よりも国をあげて移民受け入れ体制を整えようとしているそうだ。日本人は移民を受け入
れることにまだまだ積極的でないことを学んだ。

3日目 アジア開発銀行へ行った。経済の成長期であることを示すような建設中のビル群は資産家の
投資でしかなく、中には誰も住んでいないこと。人が国外へ出て行ってしまうため海外の企業が進出
しにくいこと。日本人はお金を貯めすぎること。など知らないことだらけだった。CFOでプレゼ
ンテーションをした後、ストリートチルドレンを保護しているNGOへ見学に行った。子供達は皆元気で、
楽しそうに曲に合わせて踊ったり歌ったりしていて、一見普通の家庭で育った子供となんら変わりな
いのではないと思った。しかしリストカットをした跡がある子供もいた。思春期を迎えた子供達は思い悩
みながら暮らしているようだった。

4日目 ストリートチルドレンを支援するNGO団体にも訪れた。実際に違法で家を作り、密集して暮ら
す家族の家を訪れ、絶句した。衛生環境がとても悪かったからだ。やせた犬や猫もうろうろしていた。
飼われていて、子供達にペットボトルでたたかかれている犬もいた。しかし子供達はやはり元気で、小
学生だという女の子は学校がとても楽しいと言っていた。子供たち同士で頭の蚤取りをしている光景
にも驚いた。

5日目は疲れが出たようで、午前中博物館へ行く予定だったが参加せずにホテルに残った。午後は気分
がよくなったため再び皆と合流した。CFOでプレゼンテーションをした後に、ストリートチルドレンの
母親を支援しているNGOを訪れた。母親達の自立を支援していて、機織り機で服やポーチなど様々なも
のを作っていた。

翌日も依然として倦怠感が続き、一日中ホテルで寝ていた。食事が合わなかったことや気候の変化な
どが原因だと推測している。

7日目 気分が良くなったのでかつてのスペイン人居住区へ向かった。要塞を越えると街の風景は一
転、石畳や赤煉瓦の建物などが建っていた。境界もヨーロッパ風で、とても大きかった。かつて日本
人がフィリピン人を虐殺していたという場所にも行った。何百人もの人が捕虜となり、牢屋に閉じ込
められていそうだ。この事実を知らなかったことが日本人として恥ずかしいと思った。次にイスラム
居住地区へ行き、地区内にある学校も見学することができた。

8日目 帰国。フィリピンの雰囲気をしっかりと感じられた1週間であった。2日間外に出なかったことは少し残念だが、十分にたくさんのことを学んだ。日本に移住する予定のフィリピン人の方とたくさんコミュニケーションをとることが出来た。日本についての知識や日本で暮らして行く上での展望をあまり持っていないということが衝撃であった。フィリピンから他国への頭脳流出や労働人口の流出も問題になっている。日本の企業が進出しにくいということも問題である。ストリートチルドレンの問題や、インフォーマルセクターの人々のおかげで皮肉にも経済が回っているということ。政府が国の根本的な問題を解決しなければ、いくら多くのNGOが活動しても解決しない問題がありそうだ。私も微力ではあるが、今後もJFC支援ボランティアを通してフィリピンと日本の架け橋となるような活動をしていきたいと思った。